

# 業務の実績に関する評価（大臣評価書）の様式変更について

大臣評価書・旧様式

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中長期目標、中長期計画、年度計画

主な評価軸指標等	法人の業務実績等・自己評価		主務大臣による評価		
	業務実績等	自己評価	評価		
<主な定量的指標>	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	評定	<評定に至った理由>	
<その他の指標>			<課題と対応>		<今後の課題>
<評価の視点>					<その他事項>
	「法人の業務実績等・自己評価」を記載する欄		「主務大臣による評価」を記載する欄		

令和6年度の実績に係る大臣評価書の例

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中長期目標、中長期計画、年度計画		法人の業務実績等・自己評価		主務大臣による評価		
主な評価指標等	業務実績等		自己評価		主務大臣による評価	
	<p><b>【宇宙安全保障の確保】</b></p> <p>○我が国の宇宙安全保障の確保に貢献する取組の立案・検討・マネジメントは適切に進められたか。それに伴う成果が生まれているか。</p> <p>&lt;評価指標&gt;</p> <p>(成果指標)</p> <p>○宇宙安全保障の確保に係る取組の成果</p> <p>(マネジメント等指標)</p> <p>○研究開発等の実施に係る事前検討の状況</p> <p>○研究開発等の実施に係るマネジメントの状況</p> <p>(例：研究開発の進捗管理の実施状況、施設・設備の整備・維持・運用の状況、コスト・予算の管理状況等)</p> <p>○安全保障機関等の外部との連携・協力の状況</p> <p>&lt;モニタリング指標&gt;</p> <p>(成果指標)</p> <p>○国際的ベンチマークに照</p>	<p>1. 高精度軌道時刻推定技術等に関する研究開発</p> <p>(1) MADOCA (Multi-GNSS Advanced Demonstration tool for Orbit and Clock Analysis) 高度化：ユーザーの測位精度に直結するGNSSの軌道及び時刻の推定精度を改善するために、JAXAが開発し、性能改善のための研究開発を継続している。下記に示すように、年度計画を超える顕著な成果を得た。</p> <p>a. 国土地理院との連携のもと、国際GNSS事業（IGS: International GNSS Service）の解析センターとして、測地学や世界測地座標系構築に必要な数cmオーダーの精度の精密軌道クロック推定解析を実施、世界最高精度の精密暦の生成に貢献している（2023年度より継続）。2024年度には、MADOCAのモデル改良により、GPSやGalileoの軌道推定精度が向上し、上位の解析センターに比肩する性能を達成した。（ソフトウェア改修前後で、GPS推定精度がIGS精密暦比較で18%程度改善し、全機関のうち、IGS精密暦との整合性が下位から中上位へと向上）また、既存のGPS、Galileo、GLONASS、QZSSに続き、BeiDou衛星の精密暦の公開を開始し、同事業が目指すマルチGNSSプロダクトの実現を推進した（全てのGNSSの精密暦を提供している解析センターは半数以下）。同事業の活動を通じて、国際基準座標系の維持や測地学の発展に貢献するとともに、衛星測位、測地学の分野における日本のプレゼンス向上に努めている。IGS解析センター参入と測地学への貢献が認められ2025年度の日本測地学会坪井賞を国土地理院と共に受賞した。</p> <p>b. 国際GNSS事業の公式プロダクトに、日本の準天頂衛星（QZSS）を編入するための取組を先導している。2024年度には、同事業の全ての解析センターが利用できるQZSS衛星の高精度モデルや処理手法を開発</p>	<p>評定：A</p> <p>我が国の安全保障の確保、産業の振興、国際競争力強化への貢献の観点から、関係する政府機関と密接に連携しつつ、我が国の測位システムの高度化、高精度測位情報配信サービスの実現及び測位衛星技術の利活用拡大を目指して、高精度測位システムの開発を計画どおり進めた上に、さらに先進的な測位技術の研究開発等の促進に取り組んだことで、世界最高レベルのGNSS衛星軌道クロック推定精度を維持・向上し、IGS解析センターの統合処理に継続して取り込まれているなど、顕著な成果の創出があったと評価する。</p>	<p>評定</p> <p>A</p>	<p>&lt;評定に至った理由&gt;</p> <p>以下に示すとおり、国立研究開発法人の目的・業務、中長期目標等に照らし、法人の活動による成果、取組等について諸事情を踏まえて総合的に勘案した結果、適正、効果的かつ効率的な業務運営の下で「研究開発成果の最大化」に向けて顕著な成果の創出や将来的な成果の創出の期待等が認められるため。</p> <p>(評価すべき実績)</p> <p>高精度軌道時刻推定技術等に関する研究開発に関し、国土地理院との連携の下、令和5年度に引き続き国際GNSS事業（IGS: International GNSS Service）の解析センターとして世界最高精度の精密暦の生成に貢献した。また、軌道上精密単独測位（PPP in Space）の実証に向けた実験機器の開発を当初の計画から前倒しで完了した。</p> <p>高精度測位システムの開発に関し、準天頂衛星7機体制の構築に向け、5～7号機の衛星システム試験における測位ミッションペイロード、衛星/地上間測距システム等の試験支援</p>	

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中長期目標、中長期計画、年度計画			
主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
	業務実績	自己評価	評価
<主な定量的指標>	<主要な業務実績>	<評価と根拠>	<評価に至った理由>
<その他の指標>	別添参照 (p.〇～)	別添参照 (p.〇～)	<今後の課題>
<評価の視点>		<課題と対応> 別添参照 (p.〇～)	<その他事項>

法人作成の「自己評価書」を別添とし、参照するよう変更

「主務大臣による評価」を記載する欄を拡張。見やすさの改善とともにページ数を削減